

復活の絆をつなごうキャンペーン 活動報告 その2



6月4日、5日
横浜セントラルタウンフェスティバル「Y152」に
参加してまいりました。

株式会社 ありあけ
広報室



横浜セントラルタウンフェスティバル「Y152」は、2009年に終了した横浜開港150周年（Y150）から「Y200」に向けて新たな横浜を目指し、一步一步進むことをコンセプトに、馬車道、関内、山下公園通り、横浜中華街、元町、山手の民間が中心となり運営したイベントです。

3月の東日本大震災発生により、今年度のテーマを「慈愛」とし、被災された方々に勇気と安らぎを与えることを目的として Y152 は開催されました。具体的には被災地の文化を発表したり物産品を販売したりする場を提供致することで被災された方に希望と勇気をもって共に歩みだそうという目的です。

当社ではこの趣旨に賛同し、協賛させていただくとともに、ブースを出展し被災地の復興への想いをお伝えするべく、募金活動や東北地方の原料を利用したお菓子の配布などを行いました。

6月4日、5日とも天候に恵まれ、さわやかな気候の中のイベントでした。山下公園内のメイン会場では、ステージイベントは様々な模様氏が行われ、4日は世界の音楽を楽しむコンサート、5日は45組の「ハマこい踊り」が行われ盛り上がりました。

横浜市東北県人会の皆様が参加した東日本大震災復興支援物産展では、青森、岩手、宮城などの出展があり、各地の物産をアピールされていました。

さらに被災地である気仙沼から8時間かけてバスで訪れた皆さんの浪板虎舞という太鼓と獅子舞のステージがおこなわれました。演者の皆さんも被災された方が多かったそうです。そのステージに、多くの来場者から拍手喝采で感動を与えていただきました。



当社では、2箇所ブース出展させていただきました。被災地復興のお役に立てるよう、募金活動を行うとともに、福島産の米粉を利用したこの会場だけの特別なクッキーを2000個用意し、募金をしていただいたお客様中心にプレゼントをしました。多くのお客様はその場で食べていただいて「大変おいしい」と言う声をたくさんいただき、募金にも協力していただきました。またY152会場限定の商品で、ハーバーや玉楠リーフパイなどが入った「復興支援オリジナル絆缶」を販売いたしました。商品の売上

の一部を義援金としてお届けさせていただく商品でしたが、5日の午前中には完売するなど大好評でした。

また、ブースの1つは東北復興支援物産展の中に設置させていただいたことで、当社で行っている「復活の絆をつなごう」キャンペーンについてや、陸前高田市への支援について多くの方にお尋ねいただき、当社の活動を理解していただきました。

山下公園ではY152のほかにも、「横濱ドラゴンボートレース2011」（ありあけも参加者の皆さんに黒船ハーバーを提供しました）が開催されており、多くのお客様が訪れて大盛況のうちに終了した2日間でした。